

目 次

■まえがき	1	第2章 地誌編纂と国際協力	55
■編集方針・凡例	2		
序章 総説	11		
1 本巻でとりあげられた対象と編纂の方針	11	*資料	
2 明治期概説	12	2-1 輿地誌略	61
3 大正期より第2次大戦までの概説	15	2-2 百学連環(地理学)	61
4 第2次大戦後の概説	21	2-3 地理学ノ器具装置及ヒ図雛形并ニ諸産物ヲ表示スル地図——第2回内国勸業博覧会審査報告	63
第1章 幕末・明治初期の自然の理解と記述	27	2-4 兵要日本地理小誌	65
*資料		2-5 兵測量軌典 小地測量之部	65
1-1 日本博物学年表	30	2-6 支那地誌	66
1-2 草木図説	31	2-7 日本地誌源委ヲ論ス	67
1-3 博物雑誌(緒言・総目次)	33	2-8 和漢地誌記述項目の比較一覧表	67
1-4 硯材誌	34	2-9 地理学ト地学ノ間違、地学雑誌発行ニ付地理学ノ意義ニ解釈ヲ下ス	69
1-5 安政見聞録	36	2-10 関東及関西	71
1-6 救荒誌	37	2-11 大日本地誌	72
1-7 日本災異誌	38	2-12 蝦夷地山川地理取調べに当たつての嘆願書	73
1-8 大日本府県志 火災編	39	2-13 台湾諸島誌	74
1-9 安政六年から明治7年までの函館における大気測量	40	2-14 墨西哥探検報告	77
1-10 西蝦夷地岩内石炭山開坑意見書	41	2-15 初期の万国地理学会議関係公文書	78
1-11 日本鉱泉誌	42	2-16 万国地理学会・万国気象学会参列記	79
1-12 日本地産論(日本土性論要約)	43	2-17 海外技師派遣及ビ地質学会議并ニ博覧会出品	82
1-13 食塩改良意見	45	2-18 北氷洋周航瑞典汽船ウヱガ号乗組士官饗応記事	83
1-14 地震ト工業ノ関係	47	2-19 朝鮮釜山への医員派遣に関する公文書	84
1-15 火災防禦論	51	第3章 明治の探検	85
1-16 大森介墟古物篇	52	*資料	
		3-1 渡蘭日記、西比利亜日記	87

3-2	マーシャル群島探検始末	90
3-3	明治20年8月19日の皆既日食観測	92
3-4	福島少佐の単騎シベリア横断	95
3-5	千島占守島調査報告	97
3-6	遼東半島の調査	100
3-7	樺太の国境線画定をめぐって	104
3-8	ペミール紀行梗概	107
3-9	日本ノ高山観測	109
3-10	白瀬中尉の南極探検	114

第4章 明治・大正の災害と自然調査

事業の発展	123
-------	-----

*資料

4-1	山林保護に関する意見書	137
4-2	大阪風土篇	138
4-3	淀川治水誌	139
4-4	濃尾震誌	141
4-5	待矢場両堰々史・待矢場用水史—— 足尾銅山鉍毒事件	143
4-6	洪水警報	145
4-7	河川法・砂防法の成立と治水対策の 展開	146
4-8	宮城県海嘯誌	149
4-9	埼玉県水害誌	152
4-10	森林測候所特別報告(第1号)総説	153
4-11	大正六年暴風海嘯惨害誌	154
4-12	東京災害史	155

第5章 冷害の克服

*資料

5-1	『会津農書』にあらわれた徳川時代の 冷害対策	172
5-2	東北地方凶作の原因及稲作上将来注 意すべき事項	174
5-3	福島県稲作品種標準(晩稲耕作廢 止)	177
5-4	農芸気象一斑	178
5-5	気象ト農事トノ関係(第七編)	180
5-6	農業気象研究の既往と将来を語る	181
5-7	凶年ノ研究	183

5-8	本年ノ気候ト東北地方ノ凶作	184
5-9	測候所ノ所管轉換ニ就テ	186
5-10	東北地方ニ稲ノ凶作ヲ誘致スヘキ夏 期低温ノ原因及之レカ予報ニ就キテ	186
5-11	稲作豊凶問題の決論	193

第6章 関東大震災

*資料

6-1	大震災の記録	198
6-2	科学者は大震災をどう見たか	205
6-3	大地震の予言	214
6-4	科学者の大震災から得た教訓	217
6-5	帝都復興院第1回参与会議における 総裁挨拶	224

第7章 資源の調査と開発

*資料

7-1	電気地質調査の思い出	236
7-2	堰堤実施設計認可取消請求行政訴訟 事件裁判宣告書	238
7-3	「水利法」の要望と発電事業の影響	241
7-4	水害防止協議会決定事項	242
7-5	積雪研究会視察旅行に関する報告	244
7-6	相模川河水統制事業史	245
7-7	西大阪の地盤沈下に就いて(第2 報)	247
7-8	人口政策確立要綱	248
7-9	人口政策実施促進に関する件建議	250

第8章 冷害・火災・台風

*資料

8-1	「亀の尾」から「陸羽132号」へ	268
8-2	水稻冷害の生理	269
8-3	保温折衷苗代の来歴と普及の経過	272
8-4	災害の経済的性格	273
8-5	東北の冷害と長期予報	274
8-6	昭和9年臨時気象協議会の議事録	276

8-7	室戸台風についての地方気象官署よりの報告	277
8-8	水害の発生原因	278
8-9	風水害を防ぐために	280
8-10	水害	280
8-11	火災の日本	282
8-12	大火災の調査と体験	285
8-13	函館大火の災害状況	287

第9章 日本人の食生活と栄養 291

*資料

9-1	食物の個人自由	299
9-2	家計調査報告 栄養に関する統計表	301
9-3	昭和初期の農村における食生活に関する調査	304
9-4	栄養の無自覚的合目的性	308
9-5	各地方食習慣及嗜好状況	310
9-6	人口問題より見たる国民生活の動向に関する研究	314
9-7	食糧資源の開発——野生の植物・動物の利用	316
9-8	決戦下食生活への反省——玄米食の推進	323
9-9	農村の栄養問題	324
9-10	本邦郷土食の研究	326

第10章 日本の風土の認識 329

*資料

10-1	風土	337
10-2	日本人の自然観(寺田寅彦)	339
10-3	風土産業——地方振興とその教化	342
10-4	日本風景と日本精神	344
10-5	我国の気候と其の国民性に及ぼす影響	346
10-6	日本思想史に於ける宗教的自然観の展開	348
10-7	日本人の自然観(高瀬重雄)	352
10-8	精神の風土学	353
10-9	人文地理学説史	354

10-10	草木——日本人の観た自然	354
-------	--------------	-----

第11章 自然の異変とその影響 357

*資料

11-1	富山湾ノ蜃気楼	358
11-2	神秘の火口湖・蔵王の御釜	360
11-3	昭和新山生成日記	362
11-4	第五海洋丸の遭難	367
11-5	洞爺丸遭難記	373
11-6	日本の観測者(藤村郁雄・佐藤孫七・大西正巳)	375
11-7	荻原豊次さんのこと——保温折衷苗代の発明	381
11-8	異常気象とその影響	382
11-9	生きていた彗星	387
11-10	松代地震の記録	392

第12章 昭和の探検時代 399

*資料

12-1	AACK会員の足跡	412
12-2	蒙古高原横断記	418
12-3	山西学術紀行	419
12-4	伝統	420
12-5	北鮮・白頭山	422
12-6	台湾の山	423
12-7	京城帝国大学蒙疆学術探検隊の成立と探検旅行の経過	424
12-8	草原行	426
12-9	ゴビの沙漠	428
12-10	京都大学探検部の海外活動	428
12-11	山への想念	430
12-12	軽探検のすすめ	431
12-13	海外調査と地理	432

第13章 開発と自然災害 435

*資料

13-1	水害の総合的研究	441
------	----------	-----

13 - 2	東京都水災誌……………	442
13 - 3	資源委員会勧告第1号——利根川洪水予報組織……………	444
13 - 4	水との闘いは米日反動との闘い……………	447
13 - 5	日本の林業と治水に関する勧告……………	447
13 - 6	和歌山水害報告書……………	449
13 - 7	日本の水害（座談会）……………	451
13 - 8	日本の水害——天災か人災か……………	452
13 - 9	水経済年報（昭和29年度版）……………	457
13 - 10	水害論……………	458
13 - 11	水害地域に関する調査研究（第1部）……………	460
13 - 12	火災の研究……………	462

第14章 伊勢湾台風 …………… 463

* 資料

14 - 1	伊勢湾台風災害調査団報告書……………	468
14 - 2	護岸工事はこうだった……………	473
14 - 3	風水害とどう闘うか——やさしい水害の解説、点検運動、救援運動、国家賠償の手びき（改訂版）……………	476
14 - 4	伊勢湾台風調査報告……………	478
14 - 5	伊勢湾台風被害概報……………	479
14 - 6	現地ルポ・伊勢湾台風から半歳——“災害と政治”の実態……………	486
14 - 7	日本の台風災害……………	488
14 - 8	災害対策基本法——防災計画……………	491
14 - 9	災害と教育——伊勢湾台風は何を教えたか……………	492
14 - 10	高潮の調査……………	495

第15章 風土病と疫学 …………… 501

* 資料

15 - 1	寄生虫病の疫学……………	507
15 - 2	終戦後の回虫卵陽性率の推移をかえりみて——社会医学的要因の重要性について……………	512
15 - 3	海産魚およびイカ類に由来する新しい寄生虫病—アニサキス症—について……………	515

15 - 4	恙虫と恙虫病……………	517
15 - 5	日本におけるカンシンバック病について……………	522
15 - 6	日本と世界の癌——癌の疫学・統計・地理病理学……………	525
15 - 7	死亡率の季節変動に関する研究——季節病カレンダー……………	528

第16章 自然の保護 …………… 531

* 資料

16 - 1	史蹟及天然記念物保存ニ関スル建議案……………	536
16 - 2	天然記念物総説——天然記念物から文化財まで……………	537
16 - 3	国有保護林制度の史的考察……………	539
16 - 4	自然保護についての声明書……………	542
16 - 5	原生林保護の必要とその生態学的意義……………	543
16 - 6	自然公園法解説……………	547
16 - 7	国立公園等の管理強化に関する意見書……………	550
16 - 8	自然公園制度の基本方策に関する中間答申……………	551
16 - 9	自然保護の理念……………	552
16 - 10	日本自然保護協会の発足と設立趣意書……………	555
16 - 11	自然保護運動の展開……………	556
16 - 12	日本に於ける自然保護運動——その生長発展過程の分析……………	558
16 - 13	自然保護教育に関する陳情……………	561
16 - 14	自然破壊の観光合戦……………	562
16 - 15	自然保護・国土保全に関する行政機構の整備確立に関する要望……………	562
16 - 16	自然保護についての勧告……………	563

第17章 戦後の地域開発・資源・災害問題 …………… 565

* 資料

17 - 1	日本の地域開発……………	567
17 - 2	開発は社会と自然を変える……………	569

17 - 3	雪は資源である……………	570	17 - 12	災害の論理……………	587
17 - 4	水資源開発公団の設置について（水 資源の開発利用の促進）……………	573	17 - 13	足和田惨事はこうして起きた……………	590
17 - 5	日本の資源問題……………	574	17 - 14	水げんかの実態……………	591
17 - 6	資源論……………	576	17 - 15	下釜・松原ダム問題の研究……………	594
17 - 7	わが国は最大海難国であるか……………	579	17 - 16	長期的水資源計画を確立せよ……………	599
17 - 8	自然災害（日本の風水害）……………	581	■年 表……………	605	
17 - 9	新潟よどこへゆく……………	583	■参考文献目録……………	628	
17 - 10	新しい恐怖——農薬禍はしのびよる…	584	■索引……………	637	
17 - 11	日本の公害地図……………	586			